平成 27 年度
青少年育成運動活性化研究協議会

平成２７年１１月１３日（金）　かでる２・７（札幌市）

地域の現状や課題を協議、今後の青少年育成運動を考える

道内各地における青少年育成運動に取り組んでいる関係者やボランティアの方々を対象として、運動の現状や課題、今後の進め方について共通理解を深め、それぞれの地域における今後の青少年育成運動の活性化を図るため開催しています。当日は、基調講演と３つの分科会に分かれての研究協議を行いました。

基調講演

演題「非行から見える現在の子どもたち」

北海道教育大学教職大学院准教授　**龍島 秀広　氏**

戦後最低レベルの少年犯罪

報道では、子どもが殺人事件を多数起こしている感じがするが、実際は戦後最低の件数。報道する材料が減っており、ちょっとした事件でも全国報道されてしまう。

少年の非行率でみると少年犯罪のピークは、戦後の昭和２５年から平成２４年までの約６０年間に４回のピークがある。戦後最高の非行率であった昭和５７、５８年には、中学･高校でクラスに１人は刑法犯として捕まっていたが、今は１つの中学校で１年間に１人捕まる子どもがいるかという状況になっている。

戦後最高の非行率の子ども達　大人になったら犯罪率は戦後最低

－大人になって落ち着く理由、健全育成活動の成果－

少年時代に戦後最高の非行率を記録した年齢層の子どもたちが２０歳を超えて大人になると、その年齢層が戦後、最低の犯罪率になっている。これは、中学校時代にたくさん注意され、手を掛け、手厚く育てていた子どもは、大人になると落ち着いたものと考えられる。

－非行が多いのは、中学生から高校１年生－

日本の子どもは、中学校から高校１年生にかけてが１番非行が多く、その後、落ち着いており、非行の低年齢化とよく言われているが、実際は低年齢化していない。

非行減少の要因

－① 生活が豊かになった－

昔は、貧困で生活やお金に困り、窃盗や強盗等の少年非行が多かったが、今はそのような事件は少なく、生活が豊かになったことが、非行の減少に寄与している。

－② 画一的・支配的な価値観の押し付けが弱くなった－

良い学校・良い仕事・良い生活という価値観の押し付けが弱くなった。学校や世の中でも、この価値観の押し付けが無くなってきていて、価値観として機能しなくなっている。また、「俺はどうせ勉強できないのだから。」と言って子どもが反発できなくなっており、自分が戦うべき価値観がなくなってしまった。

－③非行少年との接触が減り悪いことを教えてもらえなくなった－

少子化や異年齢の子どもたちの外遊びの減少、テレビゲーム、インターネット、携帯の普及により、人と人との接触する機会が減少している。逆に、このことが、地域の非行集団と接触することが減り、非行＝悪いことを教えてもらえることもなくなっている。

子どもの育ちのバランスが崩れている　多くの人と接触する機会を工夫して増やしてあげる

子どもを、身･知（身体･知識、学力）と、情･意（感情、情緒･意志）の二つに分けたとき、子どもの身・知は、年齢相応に発達しているが、情緒表現が豊か、他人の気持ちがよく分かる、自分をコントロールできるという情・意については、実年齢からマイナス５歳～１０歳ぐらいなのではと感じている。

また、子どもの社会性が育っていない。これを育てるためには、１つは、物もお金もある時代で、子どもを我が儘に育てないためにも、意図的に子どもに我慢させなければならない。もう１つは、子どもが育つ過程で、多くの人と接触する機会を工夫して増やすこと。今、学校で社会性を育てる教育をしようとしているが、小学校高学年や中学まで育ってから身に付けさせるのは難しい。幼い頃からそういう機会を大人、地域がつくることが大切である。

分　科　会

分科会では、３つのテーマにそった事例・話題発表があり、その後、各分科会ともグループに分かれ、活発な協議が行われました。グループ討議では、地域での活動の成果や課題等が話され、他の地域で活動している方々にとっては、共感できる部分や新鮮な情報があったりと、今後の育成運動を進める上で貴重な機会となりました。

●第１分科会　「地域における青少年育成運動について考える」（ワールドカフェ）

ファシリテーター：芳村　桐子（北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課主査）

助言者：濱口登代喜（(公財) 北海道青少年育成協会専務理事兼事務局長）

●第２分科会　「児童虐待の現状と課題」～子どもたちを守るために大人ができること～

話題提供者：米田　浩二（北海道中央児童相談所地域支援課長）

助言者：山谷敬三郎（(公財) 北海道青少年育成協会副会長）

コーディネーター：一ノ関太郎（北海道教育庁石狩教育局社会教育主事）

●第３分科会「青少年の豊かな心・生きる力を育む体験活動」

～学校・地域・社会で子どもを育むために～

話題提供者：酒井　雅彦（とっぷ子どもゆめクラブ事務局長（新十津川町））

〃　　：伊藤　公宏（北見市青年団体－ NEXT －（北見市））

コーディネーター：松岡　賢晃（北海道教育庁胆振教育局社会教育指導班主査）